

学校の臨時休業中における児童生徒への学習支援アイデア集

ICT活用編 その5 ~学習管理サービス(Google Classroom)の活用法~

学習管理サービスとは…

学習管理サービスとは、教育現場での教員と学生間のやり取りが簡単にWeb上で行うことができ、家庭学習の課題等のやり取りや回収及びフィードバックなどができるサービスのことです。

このサービスは、「学年」や「クラス」及び「教科」など任意のグループを作成し、その中でやり取りを行っていきます。資料の提示や課題の出題といったこともでき、さらに課題の提出状況も確認できます。

現在、この休校期間中の対応として注目を浴びているのが、Google ClassroomやMicrosoft Teamsのサービスです。沖縄県の県立高等学校では、学校のPCにoffice365が導入されているため、Teamsを利用して教員と学生のやり取りを始めます。

両方のサービスとも、使い方はほとんど同じで、教員や学生それぞれ自分のアカウントを持っていれば誰でも利用できます。

また、それぞれのサイトで、この休校期間中の対応を色々と行っております。そちらもぜひ参考にしていただきたいです。

★Google Classroom

https://edu.google.com/intl/ja/products/classroom/?modal_active=none

★Microsoft Teams

<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/microsoft-teams/group-chat-software>

Google Classroom 何ができるの？

実際にどのようなことができるのかを紹介します。ClassroomとTeams両方とも内容はほとんど同じです。どちらを導入するか、または違うソフトを活用するのかは各自治体で検討していただき、判断をお願いします。ただし、GoogleやGmailなどを活用している一般ユーザーが多いこと、操作画面が簡単で分かりやすいこと、YouTubeに説明動画が多いことなどを考慮するとClassroomが導入しやすいと思われます。そこで、Classroomできることを紹介します。

【Google Classroomを使ってできること】

- ① 個人のGoogleアカウントがあれば利用できる。
- ② ログインした子どもが把握できる。
- ③ 学校からの連絡を家庭に一斉送信できる。
- ④ 家庭ではアプリとメールの両方で確認できる。
- ⑤ 先生が課題の作成、収集、点検、返却ができる。
- ⑥ 授業動画やYouTube等のリンクを挿入できる。
- ⑦ 子どもは課題をPC又はスマートフォン等で確認できる。
- ⑧ 子どもは課題の提出もスマートフォン等でできる。
- ⑨ 子どもから先生に質問などが簡単にできる。

主な内容を示しましたが、他にも色々な機能があります。「Classroom」と検索すると関連するサイトや動画がたくさんありますので参考にして下さい。
学習管理サービス「Google Classroom」で先生と生徒のやり取りが簡単になる

クラスの作成方法について

Google Classroomにログインし、まず最初に行うのが「クラスを作成」です。「クラスを作成」では、色々な設定が考えられます。「学年」や「全クラス」又は「教科」ごとなど使用目的に応じて学校で統一することが必要です。

そこで、お勧めは「学年」で「クラスを作成」することです。各教科の先生は学年の子ども達に対して同じ課題を一回で提示することができ、子ども達はどの教科の課題がどのくらい出ているのか全体を把握することができます。また、先生方も全体の課題のバランスを見ながら、自分の教科の課題を調整することもできます。さらに、子どもをクラスに招待するときは、保護者にアカウントを作成してもらい、アプリをダウンロードして、「クラスコード」を入力してもらいます。「学年」でクラスを作成することで、一度の入力で閲覧が可能になります。

必要に応じてあとからクラスを追加及び削除することは可能です。まずは、学年ごとにクラスを作成し、その学年に関係するメンバー（先生）を「招待」して、課題を提示してみましょう。



まずは実際にやってみることが大切!!

これらの学習管理サービスは、アメリカやヨーロッパの多くの国で採用され、日本でも導入を検討する学校が増えてきています。

イタリアやオランダの公立学校では、新型コロナ以前ではGoogle Classroomを一切使っていなかったそうです。3月以降休校となり、初めてClassroomの使い方を教職員間で学び、すぐに導入しました。パソコンやスマートフォンがない家庭には貸し出しを行っているそうです。最初は試行錯誤し混乱したみたいですが、3週間が経ち、軌道にのってきたみたいです。

導入には他のソフトの検証や教職員のPCの環境、家庭の通信環境や端末の保持など色々と問題はありますが、市町村教育委員会や学校の教職員の間で、このような方法があることを知り、学校では教師役と子ども役に分かれて、実施にやり取りができるのか、何が必要なのか、遠隔で授業を行うにはどうしたらよいのかを試してみることをお勧めします。

まずは実際にやってみることが大切です。Web上のサイトやYouTubeにも関連する記事が増えているので、ぜひ参考にしてください。